

兵庫県里程元標 相生町1丁目

元町商店街を出たきさら広場にある高さ約3mの石柱が「兵庫県里程元標」である。大阪府、兵庫県、鳥取県、岡山県界や明石標柱までの里程が刻まれている。1910（明治43）年に相生橋の西詰めに建てられたものである。相生橋は明治のはじめ、神戸・大阪間に鉄道が走ったときに、神戸駅のすぐ東、元町通から多聞通へ行く道は鉄道で分断されることになった。そこで、その鉄道をまたぐ木造の橋をつくることになり、その橋を相生橋と呼んだ。「川がないのに橋がある」とうたわれ、橋の上から走る陸蒸気（汽車）を眺めることが出来る、神戸の名所となった。1931（昭和6）年、鉄道が高架となり、この橋もなくなり、その脇にあった里程元標も湊川神社前に移され、2004（平成16）年3月にこの場所に移設されたのである。



場所：神戸市中央区相生町1丁目1

●「相生町（あいおいちょう）」の由来

相生とは一般に、同時に生まれ同時に育つとか、一つの根元から二本の枝が出るという意味があるという。高砂の相生の松のようにめでたいことに使われる言葉として知られている。ここの相生町がどこからつけられたのかははっきりとしないが、一説にはめでたい言葉として用いられる高砂の相生の松をとったとも、また、西国街道から有馬へ行く道がここから分かれていたので相生とつけたとも言われる。

●「中町通（なかまちどおり）」の由来

兵庫の町と神戸の町の間で仲町というようになったとか、多聞通と西国街道の間にあるので仲町と呼ぶようになったといわれている。いつの頃からか、仲町が中町となった。

●「古湊通（こみなとどおり）」の由来

一説には、昔はこのあたりは入江で古い港があったことから付けられたといわれているが定かではない。